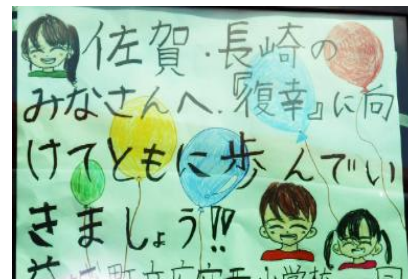
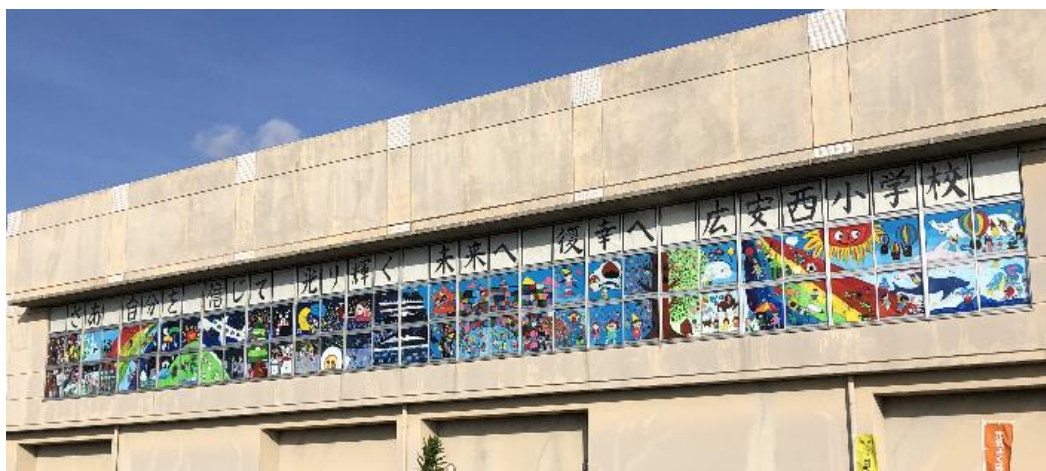


令和元年度 教育論文

研究主題

防災力を身に付けた児童の育成

～熊本地震から得た学びを生かした防災教育を通して～



教科・領域	防災教育
学校名	益城町立 広安西小学校
職・氏名	教諭 湊瀬 貴治

はじめに

「平成」という時代は、自然災害の多い時代だったとも言われます。

大災害と言われるものだけでも、平成3年長崎県雲仙・普賢岳で発生した大規模火砕流、平成5年北海道南西沖地震、平成7年阪神・淡路大震災、平成16年新潟県中越地震、平成23年東日本大震災、平成28年熊本地震、平成30年西日本豪雨。他にも、台風被害や豪雪による被害など、挙げれば限りありません。

また、平成28年2月には、南海トラフの巨大地震が今後30年に起きる確率が、「70%～80%」に引き上げられました。昨年、熊本においては、日奈久断層帯のひずみは依然として残っているとの発表がありました。

5月からスタートした「令和」という元号には「一人一人の日本人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせる、そうした日本でありたい。」との願いが込められています。

「令和」の時代に生きる子どもたちが、明日への夢や希望を持ち、自分らしく生きていくためには、自然災害と向き合い、それらに対応しうる「防災力」を身に付けることが必要です。

そこで、本研究では、今求められている防災力を育成するためには、どうしたらよいか、試行錯誤しながら実践を進めて参りました。ここに研究論文としてまとめ、多くの方々のご指導を仰ぐことにより、更に研究を深めて参りたいと考えています。どうか忌憚のないご指導を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

I	研究主題について	1
1	研究主題	
2	主題設定の理由	
3	研究主題の捉え方	
II	研究の方法	5
1	研究の仮説	
2	研究の視点と内容	
3	研究の構想図	
4	研究における防災教育カリキュラム	
III	研究の内容	7
1	視点1「自助」の知識や技能の育成に重きを置いた取組	
2	視点2「共助」の意識や行動力の育成に重きを置いた取組	
IV	研究のまとめ	18
1	研究の成果と課題	
2	本研究と心的ストレスとの関連性について	

※ おわりに、参考文献

I 研究の主題について

1 研究主題

防災力を身に付けた児童の育成 ～熊本地震から得た学びを生かした防災教育を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大地震では、児童生徒等や学校関係者の死者・行方不明者が 700 名を超え、その規模が甚大であり被害が広範囲に及んだ。平日午後の地震発生であったため、発生時刻には多くの児童生徒が在籍していたが、日常の避難訓練の成果や教員の適切な避難誘導により、地震発生時の揺れによる死者は発生せず、沿岸部の学校においても多くの児童生徒等が津波から避難している。

しかし、津波によって人的被害を受けた学校もあり、特に石巻市立大川小学校では、避難の判断が遅れ、多くの児童や教職員が犠牲となった。東日本大震災は、災害発生時における児童生徒等の安全をいかに確保するかという防災管理の課題とともに、児童生徒等に自らの命を守り抜く力をいかに身に付けさせるかという防災教育の課題を突き付ける形となった。

このような背景の下、文部科学省は、学校防災のための参考資料「『生きる力』を育む防災教育の展開」（平成 25 年）において、防災教育のねらいを以下の 3 つにまとめている。

ア 自然災害等の現状，原因及び減災等について理解を深め，現在及び将来に直面する災害に対して，的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動が選択できるようにする。

イ 地震，台風の発生等に伴う危険を理解・予測し，自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに，日常的な備えができるようにする。

ウ 自他の生命を尊重し，安全で安心な社会づくりの重要性を認識して，学校，家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し，貢献できるようにする。

つまり、防災教育は、防災に関する基礎的・基本的事項を系統的に理解し、習得した知識に基づいて的確に思考・判断し迅速な行動をとることができる力と、進んで安全で安心な社会づくりに貢献できるような資質・能力を養うことを目標とするものであり、災害大国日本に暮らす人々にとって欠くことのできない「防災力」を育むものだと思えることができる。しかしながら、自然災害の記憶は、時間が経つにつれ薄

れていくことは避けられず、防災教育について広範かつ継続的な取組を推進していくことが喫緊の課題となっている。

(2) 新学習指導要領から

新学習指導要領（平成 29 年公示）では、引き続き「生きる力」の育成が重視された。「様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会にどのように位置づけ、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していく力」は、まさに震災体験を通して求められる「生き抜く力」である。また、現在直面している課題だけでなく、将来に予想される様々な困難を乗り越え、自己実現に向けて「生き抜く力」にもつながる。これを培うためにも学校では、知識や技能の習得だけでなく、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養を 3 つの柱として、自分の日常や将来に「生き抜く力」を育む教育活動に取り組む必要がある。その具体的な一つが、防災教育と考えることができる。

さらに、新学習指導要領では、防災教育について、「各学校において、児童や学校、地域の実態及び児童の発達段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた諸課題に対して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。」と明記し、防災教育の一層の充実を図ることを示している。

(3) 創造的復興（Build Back Better）に向けて

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震（以下熊本地震）が学校現場に与えた衝撃は大きく、本県において、改めて防災教育の在り方を考え直す機会となっているとともに、今後の復興の実現に向けて心身ともにたくましい人材の育成が求められている。また、学校における防災教育が、地域の防災力向上に果たすべき役割等についても一層重視されてきている。

今までにも防災に関する教育は行われてきたが、熊本地震では、過去の大規模地震の経験が語り継がれておらず、地震への危機意識が薄れていたという課題があった。しかし、その一方で、命の尊さや助け合うこと、支え合うことの大切さ、地域とのつながりの重要性など貴重な学びを得ることもできた。

熊本県教育委員会は「熊本地震の対応に対する検証報告書」において、今後の重点的な取組として、「熊本型防災・復興教育」の推進を掲げている。「熊本型防災・復興教育」の目的は、熊本地震で得た経験や知見を語り継ぎ日頃から防災

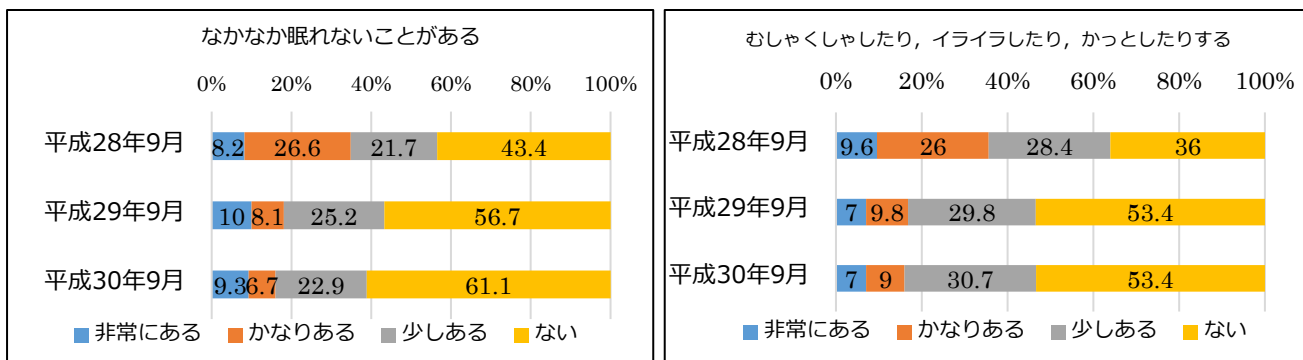
意識を高めて自分の命を守り抜くことのできる児童生徒の育成や、安全で安心な生活や社会の実現に向けて主体的に行動できる児童生徒の育成としている。つまりは、防災教育の充実を図り、児童生徒一人一人に防災力を育成することこそが、本県が掲げる創造的復興（Build Back Better）の基盤となるはずである。

（４）学校教育目標の具現化と児童の実態から

本校は、学校教育目標を「かしこく やさしく たくましい 広安西の子の育成」とし、「たくましい子」の取組の重点として、防災教育の充実を掲げている。防災に関する知識・技能を身に付けるとともに、一人一人の防災意識を高めることは、学校教育目標の具現化を図るために不可欠なものである。

さらに、本校は、熊本地震により大きな被害を受けた校区にある学校であり、児童の多くが被災体験をしている。地震による大きな揺れやその後の避難生活等によって、心的ストレスを抱えた児童も少なくない。児童の心的ストレスを解消する取組として、学期ごとに児童の心と体の状態を知るアンケートや、スクールカウンセラーや学校職員による心のケアを、学校再開直後から現在に至るまで継続して行っている（資料１）。昨年までの３年間の推移は以下の通りである。

平成28年度から平成30年度の推移



※ その他の質問項目：怖くて落ち着かない、体の調子が悪い、ご飯を食べたくない

【資料１ 心と体の振り返りシート結果 対象：本校全児童】

アンケートの結果から、心的ストレスは震災から１年後は減少の傾向が見られるが、その後は下げ止まっていることがわかった。兵庫県立大学大学院の富永良喜教授は、「児童の心の自己回復力を高めるためには、防災教育だけでは更なるストレスを生むことある。また、心のケアだけでは災害から身を守る術を身に付けることができない。防災教育と同時に心の動きやストレスの対処法を学ぶことが、児童生徒らが震災から一歩踏み出す力となる。」と提唱している。防災教育と心のケアの充実を図ることは、被災地にある学校の職員としての使命だと考える。

3 研究主題の捉え方

(1) 防災力とは

学校防災のための参考資料『『生きる力』を育む防災教育の展開』において、小学校段階における防災教育の目標を「日常生活の様々な場面で発生する災害を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、他の人々の安全にも気配りできる児童の育成」と示した。本研究では、それを踏まえて「防災力」を以下のように捉える。

災害から自分の命を自分で守ることのできる知識や技能（自助）に加えて、他者と協働し安全で安心な社会の実現に貢献しようとする意識や行動力（共助）。

ここでは、自助と共助を別々のものとして考えるのではなく、知識や技能が高まれば社会貢献の意識も高まり、安全で安心な社会づくりのために行動すれば知識や技能も深まるように、自助・共助の両方の資質・能力を備えた力とする。

京都大学大学院教授の林春男氏（防災科学技術研究所理事長）は、防災には「レジリエンス」が必要だと説いている。「レジリエンス」とは、「予測力・予防力・対応力」のことであり、「科学的な根拠のある情報に基づいて災害について予測し、それに基づいて災害危機を未然に防ぐとともに、災害から命と暮らしを守り、他者と協力して生活をより良く再建する力」としている。これは、本研究が考える「防災力」と同義と言えるだろう。

(2) 熊本地震から得た学びを生かした防災教育とは

熊本地震では、実際に大きな揺れを経験したことで、児童は震災が身近な問題であることを認識する機会となった。被災体験からは、地震が発生した際の危険箇所を知ったり、非常持出袋の準備や家具の固定など日常の備えの重要性を学んだりした。さらには、全国各地からたくさんの支援していただいたり、地域の人と助け合ったりする中で、人とつながることや支え合うことの大切さを学んだりもした。しかし、これら貴重な学びも時間が経つにつれて風化していく恐れがある。

そこで、本研究は、これらの学びを土台として、学校教育活動全体を通じて、意図的、計画的に、知識や技能を習得したり（自助）、社会貢献の意識を高めたりする（共助）等の防災に関する学習内容を配列することで、体系的な防災教育カリキュラムを作成・実践し、熊本地震で得た学びを現在、そして未来に生きる「防災力」へと変換させる。

II 研究の方法

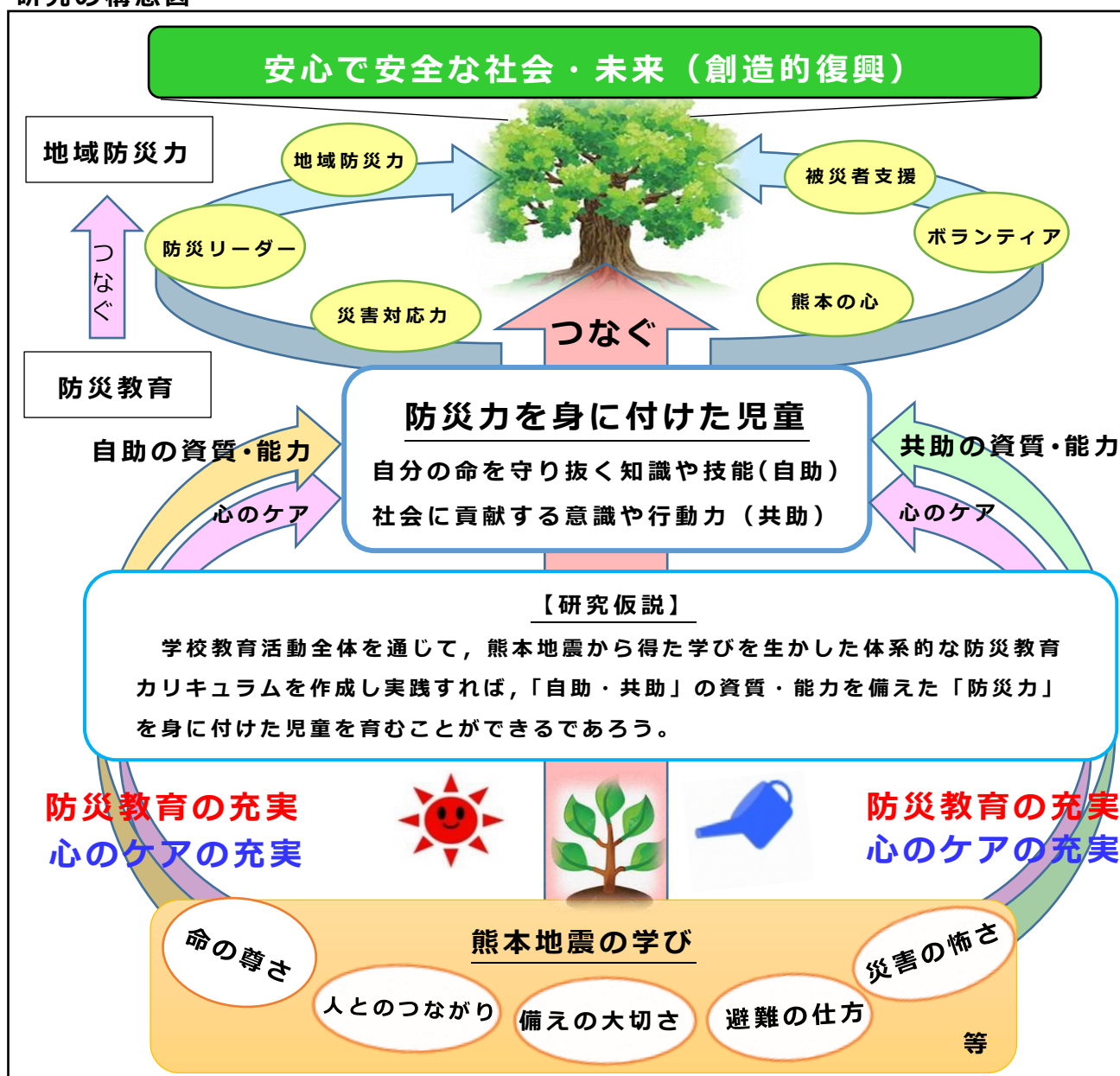
1 研究の仮説

学校教育活動全体を通じて、熊本地震から得た学びを生かした体系的な防災教育カリキュラムを作成し実践すれば、「自助・共助」の資質・能力を備えた「防災力」を身に付けた児童を育むことができるであろう。

2 研究の視点と内容

視点	内容
(1)「自助」の知識や技能の育成に重きを置いた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「自助」の知識や技能を育む防災学習 ・実践的な避難訓練 ・家庭と連携した取組 ・地域や未来に発信する取組
(2)「共助」の意識や行動力の育成に重きを置いた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「共助」の意識や行動力を育む防災学習 ・「つなぐ」を活用した道徳科の取組 ・地域の方との出会い ・地域や未来に発信する取組

3 研究の構想図



4 研究における防災教育カリキュラム（6年生）

月	防災管理	組織活動	防災教育(防災学習・防災指導)と心のケア		
	関連行事		「自助」の知識や技能の育成に重きを置いた取組	「共助」の意識や行動力の育成に重きを置いた取組	心のケア
4	年間指導計画, 通学路安全確認, 安全点検計画, メール配信整備, 家庭訪問, 益城町「命と防災の日」			・熊本地震を振り返って【学】 ・今, 私たちにできること【総】	・心と体のアンケート ・朝の心のケアタイム
5	安全点検, 交通安全教室, 不審者避難訓練, 運動会		・交通安全教室【行】 ・不審者避難訓練【行】	・運動会マスゲーム【体・行】	・朝の心のケアタイム
6	安全点検, 水防避難訓練, 心肺蘇生研修会, 水泳安全指導		・防災マップを見てみよう【学】 ・水防避難訓練【行】	・地域の方との出会い～イラストレーター井島パトリックさん～【総】	・朝の心のケアタイム
7 8	安全点検, 水泳安全指導, 夏休みのくらし指導		・ようこそ, 私たちの町へ【国】 ・洗たくをしてみよう【家】	・つなぐ「伝えたい思い～南三陸から熊本へ～」【道】 →被災地（新潟県）に応援メッセージを送ろう【総】	・朝の心のケアタイム
9	安全点検		・未来がよりよくあるために【国】	→被災地（佐賀県）に応援メッセージを送ろう【総】	・心と体のアンケート ・朝の心のケアタイム
10	安全点検		・「算数の目で見よう～震災の経験を生かそう～」【算】 ・地震のメカニズムと緊急地震速報仕組み【総】	・つなぐ「ボランティアって楽しいよ」【道】 ・つなぐ「がんばれ, 西原がんばれ熊本」【道】	・朝の心のケアタイム
11	安全点検, 地震避難訓練		・地震避難訓練【行】 ・土地のつくりと変化【理】	・つなぐ「救える命を増やしたい～河田のどかさん～」【道】	・地震避難訓練後の心のケア ・心と体のアンケート ・朝の心のケアタイム
12	安全点検, 火災避難訓練, 冬休みのくらし指導		・火災避難訓練【行】 ・非常持出袋の中身について考えよう【総】 ・防災文集を作ろう【総】	・地域の方にメッセージを届けよう【図】 ・防災文集を作ろう【総】	・心と体のアンケート ・朝の心のケアタイム
1	安全点検		・震災復興の願いを実現する政治【社】 ・防災文集を作ろう【総】	・地域の方からとの出会い～益城カメラ林さん～ ～防災土村上さん～【総】 ・防災文集を作ろう【総】	・朝の心のケアタイム
2	安全点検		・ともに生きる生活【家】 ・防災文集を作ろう【総】	・防災文集を作ろう【総】 ・避難所生活に必要なことは【学】 ・防災文集を作ろう【総】	・朝の心のケアタイム
3	安全点検, 春休みのくらし指導			・下級生や地域に発信しよう【総】 ・卒業式～花は咲く～【音】	・心と体のアンケート ・朝の心のケアタイム

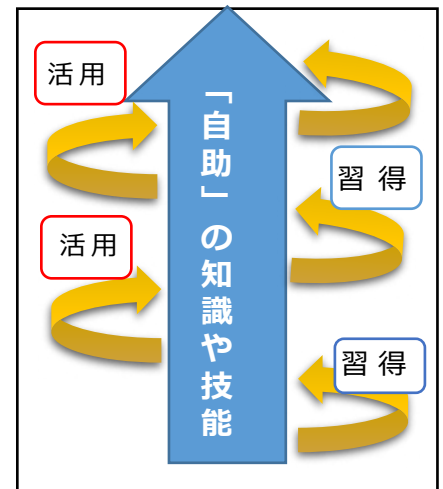
（※ 「→被災地に応援メッセージを送ろう」は年度途中で生じたもの）

Ⅲ 研究の内容

1 視点1「自助」の知識や技能の育成に重きを置いた取組

災害から自分の命を自分で守ることができる知識や技能を身に付けることができるように、習得—活用のスパイラルな過程を踏むようにした（資料2）。

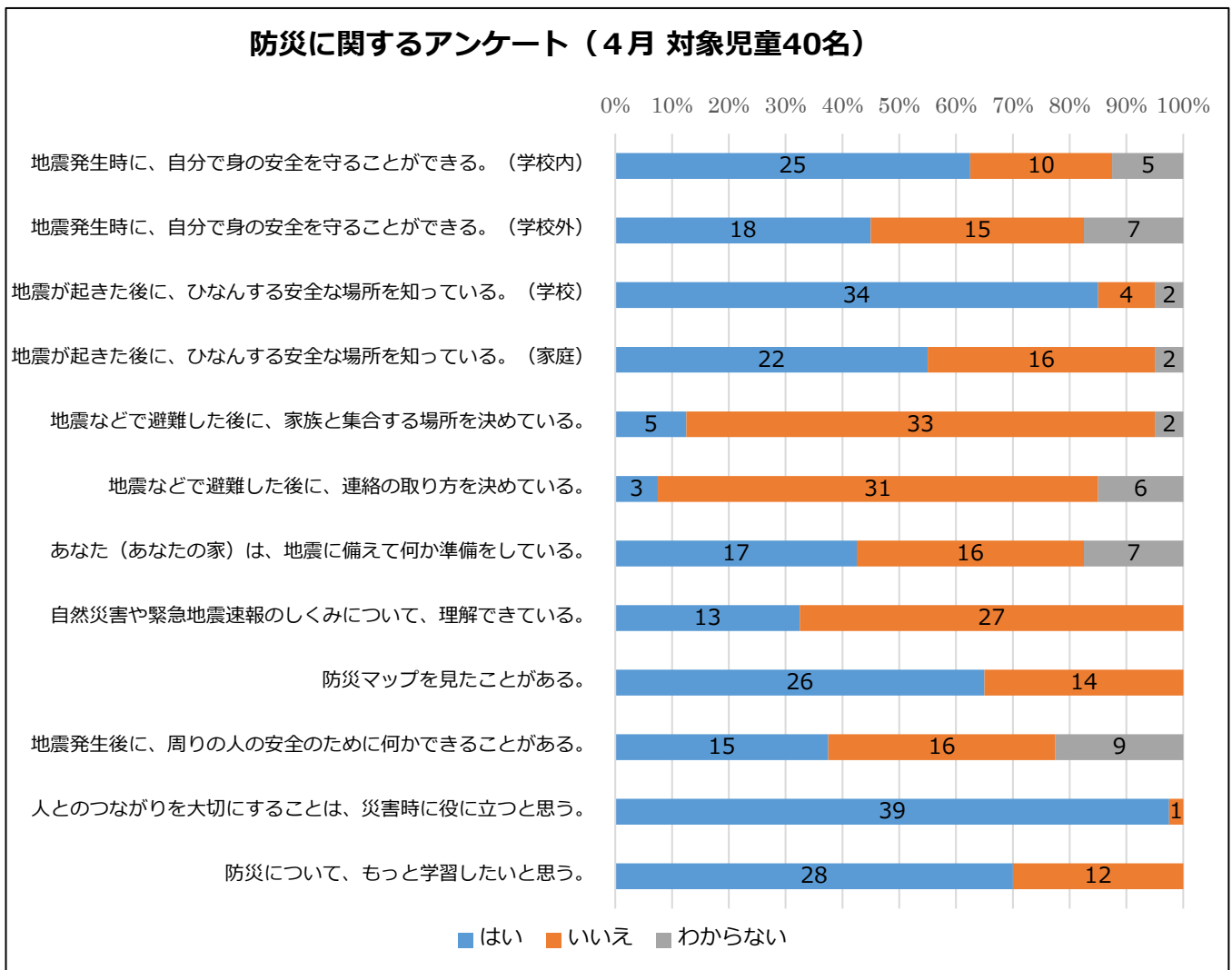
まずは、防災学習を通して知識や技能を習得する。次に、避難訓練や実生活において学んだ知識や技能を活用する。さらに、活用したことによって生まれた課題を解決するために新たな知識や技能を習得する。習得—活用を繰り返すことで「自助」の知識や技能の確実な定着を目指した。



【資料2 「自助」向上のイメージ図】


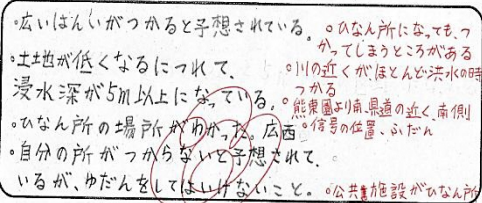
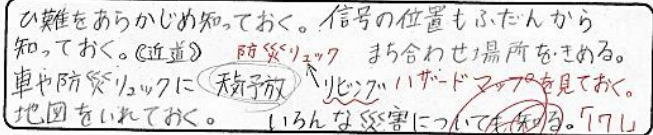
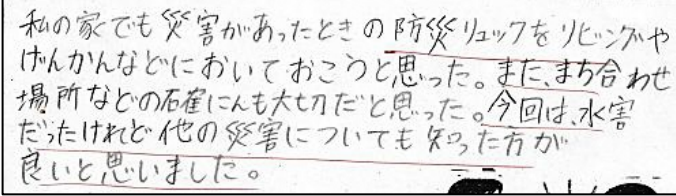
(1) 「自助」の知識や技能を育む防災学習

4月に、防災に関するアンケートを実施し、児童の実態を把握した（資料3）。その後、児童の実態と防災教育のねらいを踏まえて、総合的な学習の時間を主な対象として、他教科を横断させながら、児童に「自助」の資質を育むための防災学習を展開した。



【資料3 防災に関するアンケート 4月結果】

ア 実践事例 「防災マップを見よう」(6月5日)

課題	児童の約3割が、自分の住んでいる地域の防災マップ(ハザードマップ)を見たことがない。(資料3)地震災害に比べて、水害への備えの知識や技能が低い。	
目標(習得)	自分たちの住んでいる地域の防災マップの意味と使い方を知り、避難の仕方や日頃からの備えを考えることができる。	
過程	学習活動と教師の主な発問(○)	実際の児童の反応(・)指導上の留意点(★)
導入 10	<p>1 心のケアを受ける。</p> <p>2 これまで学習した川の働きや水害について振り返る。</p> <p>○ 私たちが住んでいる地域にはどれくらい災害の危険性があるのか知っていますか。</p> <p>3 本時のめあてをつかむ。</p> <p>防災マップを見て、自然災害への備えについて考えよう。</p>	<p>★児童の心身の状態をしっかりと把握するようにした。</p> <p>・昨年の大雨で、近くの道路が水に浸かった。</p> <p>・妙見橋は、すぐに浸かって通れなくなった。</p>  <p>(校区の防災マップの一部と授業の様子より)</p>
展開 25	<p>4 防災マップの意味と使い方について知る。</p> <p>○ 防災マップを見て、どんなことがわかりますか。</p>  <p>(児童のワークシートより)</p> <p>5 日頃から、備えておくべきことを考える。</p> <p>○ 自然災害に備えて、日頃からどんなことを備えておけばよいでしょうか。</p>	<p>★災害について調べる方法に「防災マップ」があることを伝え、入手方法も教えた。</p> <p>・避難所は、保育所や幼稚園、小学校がある。</p> <p>・土地が低くなるにつれて水量が増えている。</p> <p>・避難所も水に浸かってしまうところがあるので、何の避難所かあらかじめ知っておくことが大切。</p> <p>・町の南側は浸水の被害が大きくなる恐れがある。</p> <p>★避難経路をマーカーで塗りながら確認させた。</p>  <p>(児童のワークシートより)</p>
終末 10	<p>6 学習して分かったことを確認し、まとめる。</p> <p>防災マップは災害の被害を想定している。災害に備えて、日頃から、防災マップを見て避難経路や避難所を確認したり、非常持出袋などを準備したりする必要がある。</p> <p>7 心のケアを受ける。</p>	 <p>(児童のワークシートより)</p> <p>★「このように備えておけば安心だね」という声掛けを行った。</p> <p>★児童の心身の状態を十分配慮した。</p>
活用	水防避難訓練や実際に大雨の際に学んだ知識や技能を活用する。	

成果と課題

- 自分が住んでいる地域が浸水域かどうかや水害が起きる前の備え、水害が発生したときの避難方法などについて、互いの考えを交流しながら知識を深めていた。
- 水防避難訓練では、実際に大雨が降り、自分たちが身に付けた知識を生かすことができた。
- 「違う災害の防災マップについて知りたい。」「学びを家族にも教えたい。」など防災への意識が高まった。
- ▼ 水害への意識や備えを高めるために、家庭や地域への啓発が必要と考える。学級通信や懇談会を活用したり、児童が学びを家庭へ伝えたりして啓発を図りたい。

(2) 実践的な避難訓練

本校では、不審者避難訓練（5月）、水防避難訓練（6月）、地震避難訓練（11月）火災避難訓練（12月）の計4回の避難訓練を実施する。避難訓練実施の際には、身に付けた知識や技能が活用できるようになることをねらいとし、事前学習—訓練実施—事後学習の過程を踏むようにした。事後学習の中では、心のケアを行い心的ストレスの解消に努めるとともに、振り返りの時間を十分確保することで、知識や技能の定着を図った。

ア 実践事例 地震避難訓練（11月5日）

課題	児童の実態を踏まえて、地震後は形式的な避難訓練しか実施しておらず、児童の非常時への対応力が不十分ではないかと考える。											
目標	事前学習—実践的な訓練—事後学習の過程を経て、地震に対する知識や技能を高める。地震の備えや緊急地震速報のしくみ等を学び、心的ストレスを緩和する。											
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> ①地震のメカニズムや対処方法、緊急地震速報のしくみについて学習する。 ②実際に学級で、緊急地震速報を使って休み時間に地震が発生したという想定で避難訓練をやってみる。 ③やってみての課題を出し合い、解決策を考える。 	<p style="text-align: center;">（11/1の板書より一部抜粋）</p>										
訓練実施	<ol style="list-style-type: none"> ④実践な避難訓練を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報を活用する。 ・地震発生時刻を知らせずに行う。 ・休み時間に教師が離れての実施。 ・防災士を招き、専門的な立場から指導を仰ぎ、新たな知識や技能を学ぶ。 	<p style="text-align: center;">（避難訓練の様子より）</p>										
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> ⑤振り返りシートをもとに、成果と今後の課題を見つける。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">【1】今日のひなん訓練をふり返りましょう。 (◎よくできた ○できた △できなかった)</td> </tr> <tr> <td>①地震発生後、頭を守り、ゆれがおさまるまで、じっと待つことができましたか。(初期の安全行動)</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>②先生の話や指示を聞くことができましたか。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>③おはしもちを守って、ひなんすることができましたか。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> <tr> <td>④まわりに声をかけたり、協力したりしてひなん訓練に参加できましたか。</td> <td style="text-align: center;">◎</td> </tr> </table> 	【1】今日のひなん訓練をふり返りましょう。 (◎よくできた ○できた △できなかった)		①地震発生後、頭を守り、ゆれがおさまるまで、じっと待つことができましたか。(初期の安全行動)	◎	②先生の話や指示を聞くことができましたか。	◎	③おはしもちを守って、ひなんすることができましたか。	◎	④まわりに声をかけたり、協力したりしてひなん訓練に参加できましたか。	◎	
【1】今日のひなん訓練をふり返りましょう。 (◎よくできた ○できた △できなかった)												
①地震発生後、頭を守り、ゆれがおさまるまで、じっと待つことができましたか。(初期の安全行動)	◎											
②先生の話や指示を聞くことができましたか。	◎											
③おはしもちを守って、ひなんすることができましたか。	◎											
④まわりに声をかけたり、協力したりしてひなん訓練に参加できましたか。	◎											
習得	<ol style="list-style-type: none"> ⑥心のケアとアンケートに取り組む。 ⑦アンケートの結果、必要な際はカウンセリングを受ける。 ⑧家庭で避難訓練の様子を話し合い、新たな知識や技能について学ぶ。 											


成果と課題

- 緊急地震速報の仕組みを学び、怖いものから私たちの身を守るためのものへと認識を変えることができた。
- 事前に発生時刻を知らせずに実施したが、事前学習を生かして、子どもたちは落ち着いて自分の命を守る行動を取ることができていた。中には、下級生に覆い被さり、危険から守ろうと行動する姿も見られて、知識や技能の高まりを感じた。
- ▼ 学校内で発生した際の避難訓練は実施しているが、家庭や地域で過ごしている際の避難のしかたなどを、これから身に付けていく必要がある。

(3) 家庭と連携した取組

防災学習や避難訓練を実施後に学んだことをもとに、家庭で話し合ったり、一緒に防災対策をしてもらったりするなどして、学校と家庭が一体となって「自助」の知識や技能の育成を図るようにした。

ア 実践事例 「非常持出袋の中身を考えよう」(12月20日)

課題	<p>備蓄や非常持出袋など地震に備えて何か準備している児童の割合が低い。(資料3)また、非常持出袋を備えている家庭もあるが、児童自身が準備したものは少なく、中身を知らない児童が多い。</p>	
目標(習得)	<p>非常持出袋の必要性を理解し、非常時の備えについて考えることができる。</p>	
過程	<p>学習活動と教師の主な発問(○)</p>	<p>実際の児童の反応(・)指導上の留意点(★)</p>
導入	<p>1 心のケアを受ける。</p> <p>10 2 最近の災害や避難訓練を思い出す。</p> <p>3 本時のめあてをつかむ。</p> <p>ひなんするときに必要なものを考え、非常持出袋をつくろう。</p>	<p>★児童の心身の状態をしっかりと把握するようにした。</p> <p>★映像資料を見せ、熊本地震や最近の災害について振り返った。</p> <p>★教師が用意した非常持出袋を見せてイメージを膨らませた。設定を冬場に大きな地震が発生したものとした。</p>  <p>(授業の様子より)</p>
展開	<p>4 非常持出袋の中身について考える。</p> <p>25 ○ 避難することになった時のために、あなたは非常持出袋に何を入れておきますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水、非常食など、食べるのに必要なもの。 ・ラジオ、ライターやマッチ、筆記用具、雨具、スリッパなど、あると便利なもの。 ・タオル、着替え、ティッシュ、常備薬など、健康衛生のためのもの。 ・お金、身分証明書、印鑑など貴重品。
終末	<p>5 本時をまとめる。</p> <p>10 非常持出袋の中身は、食料や便利なもの、健康のためのもの、貴重品などの中から、自分たちの生活や気候などに合わせて、日頃から準備しておくことが大切。</p>	<p>今日学んだことを生かせるように、また、家に帰ってから非常用リュックの中を見てみようと思いました。非常食品も、どんなものがあってもいいと思います。</p> <p>自分では考えない非常持ち出しぶくろにいれたいものを開けて勉強になったと思えました。そして家に帰って勉強になったことを生かして非常持ち出しぶくろをつくってみようと思いました。</p> <p>(児童の振り返りシートより)</p>
事後学習(活用)	<p>7 家庭で防災会議を開き、非常持出袋を作ったり、地震への備えについて話し合ったりする。</p> <p>8 家庭での学びを学級に広げる。</p>	<p>1Fと2Fに防災グッズを置いておく。地震の場合は揺れがおさまったら外に出て家の駐車場で避難する。これは、比較的物が落ちてこぶ場所であるためです。その後歩いて応西小学校に避難する。</p> <p>集合場所: 自宅の庭。遠方の親せきの家は1階の拠点にする。</p> <p>公衆電話のかけこみ: 7ラマヤセ。玄関にネープレート(名前住所TEL)を常備しておく。など。1階の先。10月。</p> <p>必ず張り紙に伝言。(その場を離れる時) 防災士の方から聞いたお話しなどは伝えず。準備、対策などに生かしていることと書いておきます。</p> <p>(保護者のコメントより)</p>

成果と課題

- 非常持出袋の中に入れておきたいものとその理由を考えることで、備えの意識が高まった。また、友達と意見交換することで、新たな知識を学ぶことができた。
- 家庭で防災会議を開くことで、知識を深めることができた。啓発にもつながった。
- ▼ 今回は非常持出袋を作るまでだったが、実際に背負って避難所まで移動することによって技能が高まったり、課題を発見できたりすると考える。

(4) 地域や未来に発信する取組

防災教育の年間の総まとめとして、12月より、「熊本地震を経験した私たちにしかわからないこと、伝えられないことを未来に発信しよう！」をテーマに「防災文集」の作成に取り組んでいる。我が家の防災対策など「自助」について記事にしたり、人とのつながりの大切さなど「共助」について記事にしたりと、自分が一番伝えたいことを B4用紙1枚にまとめている。

10年後や20年後に本校へ入学してくる熊本地震を知らない後輩のために、一人一人が防災文集として表現することで、学んだ知識や技能が深化したり、実践意欲が向上したりすることをねらいとした。

ア 実践事例 「防災文集を作ろう」(12月～2月)

課題	震災の学びは、時間が経つにつれ風化してしまう。児童は、学んだ知識や技能を後世のために役立てたいと考えているが、その方法を模索している。	
ねらい	防災文集に表すことで、これまでに学んだ知識や技能を深化させる。防災文集に残すことで、熊本地震の学びを後世に伝える。	
<p>課題設定</p> <p>↓</p> <p>情報収集</p> <p>↓</p> <p>整理分析</p> <p>↓</p> <p>まとめ表現</p> <p>↓</p> <p>行動発信活用</p>	<p>熊本地震</p> <p>地震発生時の様子 今から約3年前の4月14日、9時26分と4月16日の1時25分に震度7の大きな地震が2度にわたって私たちが住む益城町をおそいました。地震発生時はテレビが揺れ、お風呂が溢れることもあった。地震がおさまると水は断水し、トイレが詰ることもありました。夜は過ごしたものの、お風呂が溢れ、車庫に車を倒すなど、お家の被害は大変なものでした。他の家には何となく、お家の被害は大変なものでした。お家の被害は大変なものでした。</p> <p>避難生活の様子 地震が起きた後、家族3人は車庫泊をしながら、避難生活を送りました。お風呂が溢れ、お家の被害は大変なものでした。お家の被害は大変なものでした。お家の被害は大変なものでした。</p> <p>熊本地震の思い出 熊本地震を経験したことを、後世に伝えるために、防災文集を作りました。お家の被害は大変なものでした。お家の被害は大変なものでした。お家の被害は大変なものでした。</p>	<p>復幸新聞</p> <p>自分の体験 熊本地震は、4月14日と16日の2回にわたって起こりました。お風呂が溢れ、お家の被害は大変なものでした。お家の被害は大変なものでした。お家の被害は大変なものでした。</p> <p>必要な物 熊本地震を経験して、日頃から備えておいた方がいいものをご紹介します。</p> <p>防災用品 防災用品は、地震発生時に役に立ちます。お風呂が溢れ、お家の被害は大変なものでした。お家の被害は大変なものでした。お家の被害は大変なものでした。</p>
(昨年度児童作成の防災文集より)		

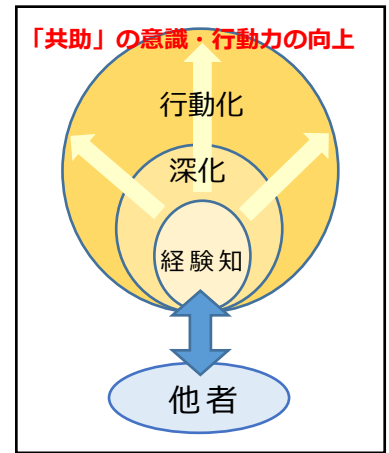
成果と課題

- 自ら課題を設定し、課題解決のための情報を収集することによって、新たな知識を習得することができている。今後、集めた情報を表現したり、交流したりすることによって、更に知識が深化していくと考える。
- ▼ 完成までに、集めた情報を活用して、実際に備える物の準備等を日常生活の中で、やってみることで、知識だけでなく技能も身に付けることができると考える。

2 視点2「共助」の意識や行動力の育成に重きを置いた取組

4月のアンケート（資料3）では、9割以上の児童が「人とのつながりが災害時に役に立つと思う。」と答えた。この結果は、熊本地震の経験知によるものとする。

本研究では、熊本地震での経験知を核にして、他者と関わることによって、安心して安全な社会に貢献する意識や行動力を高めていく（資料4）。具体的には、震災時に受けた支援への感謝の気持ちを児童同士で分かち合い、「自分も被災地のために行動したい。」という気持ちを高める。震災からの学びを生かして地域貢献している人と出会い、その生き方や考え方に触れる。実際に自分も地域のために行動するなど、段階を踏みながら、「共助」の意識や行動力を高めていく。





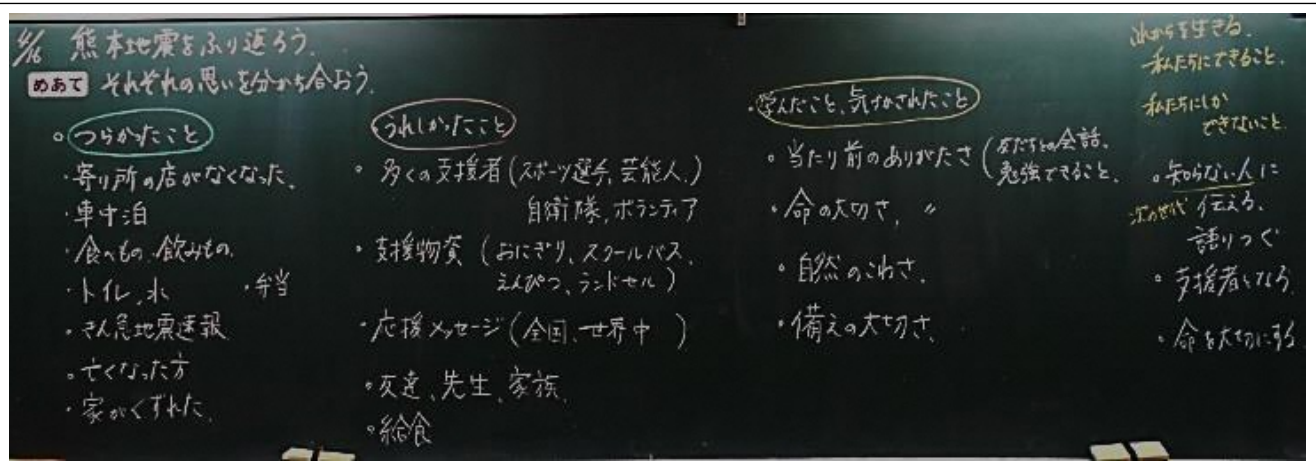
【資料4 「共助」向上のイメージ図】

(1) 「共助」の意識や行動力を育む防災学習

それぞれの思いを分かち合ったり、児童同士が協働しながら社会に貢献する活動に取り組んだりすることを通して、児童に「共助」の意識や行動力を育むことを目指した。

ア 実践事例 「熊本地震をふり返ろう」（4月16日）

ねら	熊本地震をふり返り、つらかったことやうれしかったこと、学んだことを分かち合い、自分たちの頑張りに気付かせたり、これからできることを考えたりする。	
過程	学習活動と教師の主な発問(○)	実際の児童の反応(・)指導上の留意点(★)
導入 10	1 心のケアを受ける。 2 映像資料を見せて、熊本地震をふり返る。 3 本時のめあてをつかむ。 それぞれの思いを分かち合おう。	★児童の心の状態を十分に配慮した。 ・車中泊をした。眠れなかった。 ・学校が再開した時はうれしかったな。 ・給食ではなくて弁当だったね。 ・たくさんの方が支援に来てくれた。 ★前向きになるような映像を準備した。(学校再会時の写真) 
展開 25	4 それぞれの思いを出し合い、分かち合う。 ◎ 熊本地震をふり返って、どのようなことが心に残っていますか。 5 児童の頑張りや思いを認める。 ◎ つらかったこともたくさんあったけど、助け合いながら今日を迎えることができたのですね。 6 これからできること、やりたいことを考える。 ◎ 地震を体験した私たちにできることはどんなことですか。	★児童一人一人の思いを共感的に受け止めるようにした。 ・いつも通っていた店がなくなった。 ・塀が崩れて、通学路が通れなくなった。 ・多くの支援物資やメッセージを頂いた。 ・当たり前のありがたさがわかった。 ・命の尊さがわかった。 ・自然の怖さや日頃の備えの大切さがわかった。 ・地震を知らない人たちに学んだことを伝えたい。 ・自分たちも支援をしたい。 ★昨年度の卒業生の防災文集を活用して考えさせた。 
終末 10	7 本時をまとめる。 熊本地震はこわいだけでなく、たくさんの学びがあった。その学びを多くの人につないでいこう。 8 心のケアを受ける。	★児童の感想から、本時をまとめるようにした。 ・地震があったから、備えの大切さに気付かされた。 ・地震があったけど、協力して乗り越えることができた。 ・地震の学びを未来に伝えていかなければならない。 ★児童の心身の状態を十分配慮した。



「熊本地震から3年たって、今思うこと」

第6学年児童

今日で熊本地震から3年です。私は、今でもテレビなどで地震の映像を見たり、緊急地震速報を聞いたりすると、こわいです。今後、大きな地震にあうのはいやです。たくさんの人のが傷つき、苦しむことは、2度と起きてほしくありません。

ですが、地震があったから、たくさんを知ることができたり、学ぶこともできました。

地域の人や全国各地のいろいろな人に支えられてうれしかったですし、当たり前の生活の「ありがたさ」にも気付くことができました。学校が再開して、友達と再会したときの「うれしさ」は今でも覚えていますし、吹奏楽部で、仲間と一緒に楽器を演奏することを「喜び」に感じています。

熊本地震の後にも、大阪や北海道で大きな地震がありました。広島などでは大雨の被害も出ました。

私たちは、熊本地震を経験したから、苦しんでいる人の気持ちもよくわかります。3年たった今だから、たくさんの人に学んだことを教えることができると思うし、また、勇気づけたりして行くことが大切だと思います。この思いが、熊本県だけでなく、全国の人々に伝わったらいいと思います。

これからは、あの時の経験をいかし、私たちを支えてくれた人、勇気づけてくれた人に、「恩返し」をしていくこと、今、苦しんでいる人を勇気づけることを、やれるだけやっていきたいと思っています。

「復幸」に向けて、一歩ふみ出そうと思っています。

【資料5 4/16の板書と児童の感想文】

成果と課題

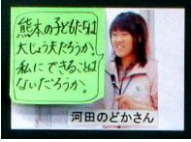
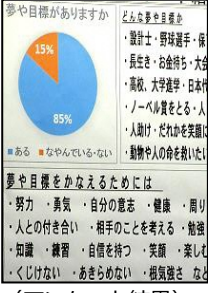


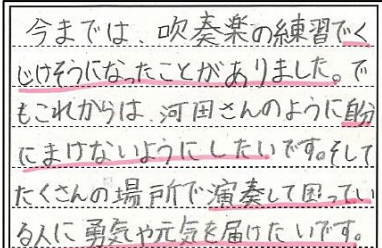

- 地震からの学びを児童同士で語り合い、分かち合うことで、災害への備えだけでなく、命の大切さや人の温かさなどに改めて気付くことができた。
- 地域の方と協力したことや、全国各地からの多くの支援をいただいたこと思い出し、地震を経験した自分たちにしかできないことを考えることができた。
- 不安や悩みを分かち合ったり、自分たちの頑張りを確認したりすることで、児童の心的ストレスを和らげることができたと考える。
- ▼ 児童全員が思いを語るできておらず、今後も思いを分かち合うような取組を継続することで、児童の心的ストレスの解消に努めたい。

(2) 「つなぐ」を活用した道徳科の取組

平成28年度熊本地震関連教材「つなぐ～熊本の明日へ～」(平成30年熊本県教育委員会作成)を活用した道徳科の授業に取り組んだ。

「つなぐ」は、郷土熊本が経験した熊本地震を通して、自己を見つめ、他者と交流する中で自己の生き方についての考えを深めていくことをねらっている。熊本地震で見られた姿や経験を語り継ぐとともに、郷土を愛し、自己の生き方を考え、夢と誇りを持って、安心で安全な地域や未来のために主体的に行動する児童の育成を目指した。

ア 実践事例 「救える命をふやしたい～河田のどかさん～」(11月7日)

ねらい	内容項目【A-(5) 希望と勇気, 努力と強い意志】 被災地で活動を通じる河田さんの生き方を考える活動を通して, つらいことがあってもくじけず志をもって努力をしようとする心情を育てる。	
過程	学習活動と教師の主な発問(○)	実際の児童の反応(・)指導上の留意点(★)
導入 5	<p>1 将来の夢や目標についてのアンケート結果を知り, 内容項目への方向付けをする。</p> <p>2 リード文から, 河田さんについて知る。</p> <p>3 本時のめあてをもつ。</p> <p>熊本のために活動をしている河田さんの生き方を考えよう。</p>  <p>(河田さん写真)</p>	<p>★夢や目標についての事前アンケートの結果を提示し, ねらいとする内容項目について焦点化を図った。</p> <p>★河田さんについて知り, リード文からめあてをもたせるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震から二週間後には, 神戸からかけつけて来てくれた。 ・今も熊本のために活動をしている。  <p>夢や目標をかなえるためには ・努力 ・勇気 ・自分の意志 ・健康 ・周り ・人との付き合い ・相手のことを考える ・勉強 ・知識 ・練習 ・目標を持つ ・笑顔 ・楽しむ ・くじけない ・あきらめない ・根気強さ など</p>
展開 30	<p>4 教材を読んで考える。</p> <p>○ 河田さんはどんな人ですか。心に残ったことを出し合ひましょう。</p> <p>○ 河田さんが「ボランティアに行きたくない。」と思ったのはなぜでしょう。</p> <p>【中心発問】</p> <p>河田さんが, つらいことがあっても熊本や他の被災地のために活動をしているのはなぜでしょう。</p>  <p>(授業の様子より)</p> <p>5 教材から学んだことをもとに自己を見つめ直す。</p> <p>○ 河田さんの生き方を学び, これからどんな自分になりたいですか。</p>  <p>(授業の様子より)</p>	<p>★自分たちと同じように, 幼いときに河田さんが被災体験をしていることを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪神・淡路大震災で被災し, 大好きなおじいさんの家が半壊した。 ・多くの人を救いたいと, ボランティア活動をしている。 <p>★人間理解として, ト라우マで苦しむ河田さんの姿から, 夢や目標をあきらめそうになる気持ちを考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震のことを思い出したから。 ・被害の様子を見たくないと思ったから。 <p>★多面的・多角的に考える手立てとして, ペアトークや全体交流を行い, 似ている考えや他の考えに気付かせた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震で辛い思いをしている子供たちを勇気づけたい。 ・備えをする大切さを伝えて, 多くの命を救いたいから。 ・絶対に助けてやるという強い気持ちがあるから。 <p>★事前アンケートに書いた自分の夢や目標を振り返り, 河田さんの生き方から, なりたい自分について考えさせた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つらいときも自分に負けない人になりたい。  <p>(児童のワークシートより)</p>  <p>(授業の様子より)</p>
終末 10	<p>6 教師の説話を聞く。</p> <p>○先生の夢について話をします。</p>	<p>★前向きに努力してよかった経験があったことを伝えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢を叶えるには, 努力を重ねることが大切だ。 ・自分も夢を叶えるために, 練習を頑張ろう。




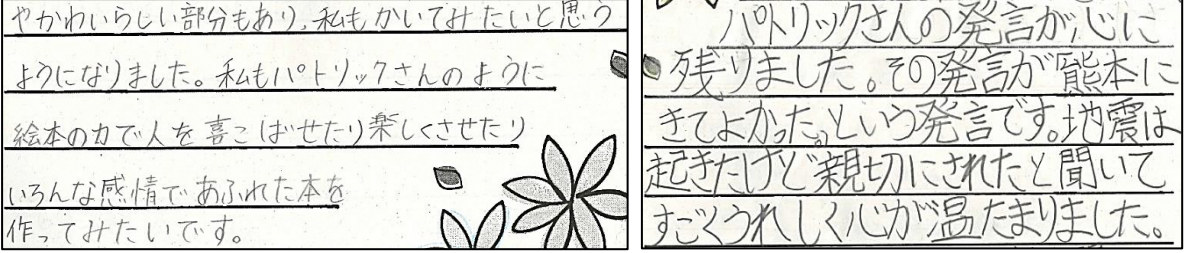
成果と課題

- 河田さんの生き方に触れて, 安心で安全な社会づくりに参画し, 自分だけでなく他の人も含め安全で幸せに暮らせる社会をつくろうとする意識を高めることができた。
- 「つなぐ～熊本の明日へ～」に書かれてある内容と自分の実体験を重ねて考えることで, 熊本地震の学びを思い出したり, 深めたりすることができた。
- 他の取組では, 保護者に授業を公開して啓発や防災意識の向上を図ることができた。
- ▼ 今後も防災の知識や技能を習得する時間ではなく, 「共助」の資質を育む道徳科の授業であることを教師側が意識をして取り組んでいく必要がある。

(3) 地域の方との出会い

地域には、熊本地震の学びを社会や未来につなげる取組を実践されている方がいらっしゃる。児童がその方々と実際に出会い、生き方や考え方に触れることによって、熊本地震の学びを深めたり、社会貢献への意識を高めたりすることをねらった。さらには、地域の方の地震に負けない前向きな姿勢から、児童の心的ストレスを和らげることをねらった。

ア 実践事例 「イラストレーターパトリックさんから学ぼう」(6月26日)

ねらい	熊本地震の学びを絵本にされたパトリックさんの生き方や考え方に触れて、熊本地震の学びを深めたり、自分たちにできることを考えたりする。絵本の内容やパトリックさんの話を聞いて、児童の心的ストレスを和らげる。	
内容	学習活動と実際の児童の反応(・)指導上の留意点(★)	
事前学習	<p>1 新聞記事(読売新聞H.18.5.12)から、パトリックさんについて知る。</p> <p>★ 自分たちと同じような思いを持って活動されている方がいることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震を絵本で伝えるなんてすごい。 ・実際にどんな絵本なのか読んでみたい。 	 <p>熊本地震 絵本で伝える</p> <p>御船の米国人制作</p> <p>慌てず泣かずに 熊本地震の被災者や被災地を支援するために、米国人イラストレーターパトリックさんが、熊本地震の経験を絵本に描き、子どもたちに伝える活動をしています。</p> <p>(読売新聞記事)</p>
地域の方との出会い	<p>2 パトリックさんによる絵本「がっばちゃんとぐまくのー・二・三」の読み聞かせを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの経験と似ている。 ・地震の恐怖に負けないで、成長している。 <p>3 パトリックさんの絵本に込めた思いを聞き、その後感想を交流する。</p> <p>★パトリックさんに熊本地震時の娘さんの姿から、絵本を作成したことを話してもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パトリックさんの娘さんも地震が怖かったけど、「あわてない。泣かない。こわがらない。」の教えを守って、地震を乗り越えたんだ。 ・自分たち子供にもできることがあることがわかりました。 <p>4 パトリックさんに手紙を書く。</p>	 <p>ようこそ広安小学校へ</p>  <p>(実際の様子より)</p>
	 <p>(児童が書いた手紙 一部抜粋)</p>	
今後	益城カメラの林さんの話を聞こう、歌う防災士の村上さんの話を聞こう(1月)	



成果と課題

- パトリックさんとの出会い、生き方や考え方に触れて、まわりのために、自分にできることを考えたり、心的ストレスを和らげたりすることができた。
- 今回の学びが、被災地に手紙を送ったり、地域を元気にするために体育館の窓に絵を描いたりするなどの行動化につながった。
- ▼ 今後も地域の人材を発掘して出会いの場を設けることで、熊本地震の学びを深めることができると考える。

(4) 地域や未来に発信する取組

熊本地震の際に、地域の方や全国各地から支援をしていただいた方への感謝の気持ちを具現化し発信することによって、「自分たちも社会に貢献することができる。」という実感を持たせることをねらった。自然災害が発生した際は、応援メッセージを送るなど支援者として行動することによって「共助」の意識や行動力が高まるようにした。


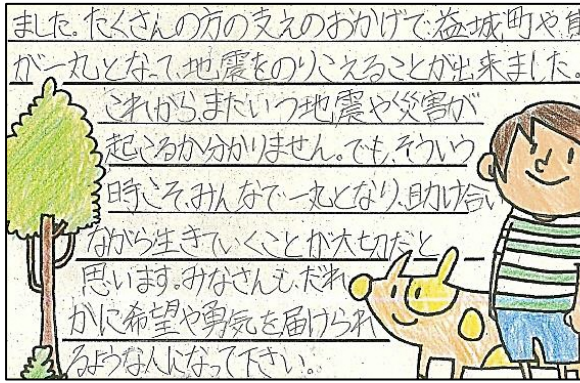
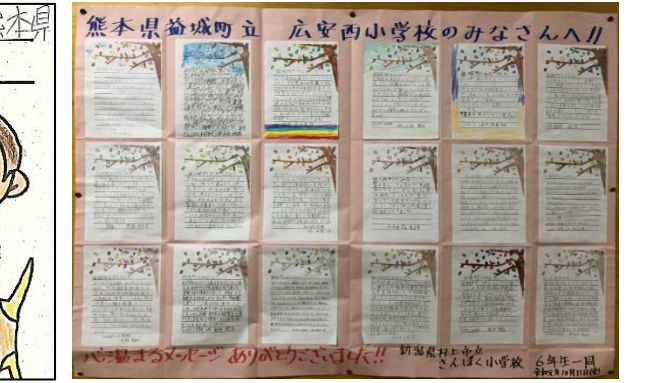
ア 実践事例 運動会マスゲーム「未来へ」(5月25日)

ねらい	「未来へ」をテーマにマスゲームに取り組み、運動会を見に来て下さった地域の方に向けて熊本地震の際の感謝の気持ちを表現する。真剣に取り組むことによって、達成感や満足感を味わわせるとともに、地域に貢献する意識を高める。
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動会のマスゲームのテーマを決める。 2 マスゲームの練習をする。 3 運動会で発信する。 4 活動をふり返る。
実際の様子	
児童の反応	<p>「感動をとどけたマスゲーム」 第6学年児童</p> <p>「プログラム17番、6年生によりますマスゲーム『未来へ』です。」</p> <p>運動場に放送がなりひびく。今日は、広安西小学校の運動会だ。私にとって、最後の運動会である。私たち6年生は、熊本地震の時に支援をくださった方や地域の方に向けて、感謝の気持ちを勇気や感動を届けることで恩返しをしたいと練習してきた。(途中省略)</p> <p>「6年生、退場。」私は「やりきったぞ。」と思いながら、とびきりの笑顔で退場した。退場した観客席の方からは、「私、感動しちゃった。」「本当ね。すごかったね。」という声が聞こえた。とてもうれしかった。こうして、私たちのマスゲームが終わった。</p> <p>私は、このことを通して学んだことがある。それは、一人一人が全力を出し切ることで、人々を感動させたり、勇気づけたりすることができるということだ。この学びを生かして、何事にも全力で取り組んでいきたいと思う。そして、たくさんの人に勇気と感動を届けたい。</p> <p style="text-align: center;">(運動会をふり返っての児童作文より)</p> 

成果と課題

- 「熊本地震の学びを地域に発信しよう。」とマスゲームに真剣に取り組んだことで、自分たちの取組が他人を勇気づけたり、感動を与えたりすることができることを実感し、地域に貢献する活動への意欲付けになった。
- 体育科などの教科指導や学校行事においても、防災教育の視点を取り入れることで児童の防災力の資質・能力を高めることができることがわかった。
- ▼ 児童の「共助」の意識や行動力を高めていくには、一度切りで終わらず、今後も発信する活動を継続する必要がある。



イ 実践事例 「被災地にメッセージを送ろう」(7月, 9月)

ねらい	6月18日山形県沖地震発生, 新潟県に大きな被害。8月27日九州北部豪雨発生, 佐賀県武雄市に甚大な被害。熊本地震の学びを生かして支援者としてできることを行うことで, 社会貢献の意識や行動力を高める。	
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 被災地の被害状況について知る。 被災地のために, 自分たちにできることを考える。 被災地に向けてメッセージ(手紙)を発信する。 活動をふり返る。 	 <p>(修学旅行先で手紙を渡す様子とバスに貼ったメッセージ)</p>
実際の様子	 <p>(新潟県に向けて児童が書いた手紙 一部抜粋)</p>	 <p>(新潟県村上市立さんぼく小学校より届いた手紙)</p>

成果と課題

- 7月, 新潟県に応援の手紙を送ると新潟県村上市立さんぼく小学校よりお礼の手紙が届いた。9月の修学旅行では, 武雄市の方に応援の手紙を直接渡すことができ, 「ありがとうございます。」と喜ばれる様子を見ることができた。熊本地震の学びを他の被災地につなぐ経験を通して, 自分たちにできる社会貢献のしかたについて考えることができた。
- ▼ 今回の学びを生かすことで, 児童一人でも支援者として行動する力につなげていく。

ウ 実践事例 「地域の方にメッセージを届けよう」(12月)

ねらい	体育館の窓に, 地域の方が元気付くような絵を描いたり, 笑顔になるようなメッセージを書いたりすることを通して, 地域に貢献しようとする意識や行動力を高める。	
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 地域の復興の状況について知る。 地域のために, 自分たちにできることを考える。 地域に向けてメッセージ(壁画とメッセージ)を発信する。 活動をふり返る。 	
実際の様子	 <p>(巨大壁画と応援メッセージ)</p>	
児童の反応	<p>最初見た時、私達がこの絵をフ く、たと思おうと、すごくうれしか たし、最高の思い出になりました。 6年生全員で書いた絵をたくさん の人にってもらって、元気や笑顔 が一つでも増えてほしいと強く思 いました。少しかも未来へつなげ てほしい。また、6年生みんなで 作りあげた最高の復興へ未来へつ なげる一つの絵だと思えます。</p>	<p>私は、体育館の絵を見た人たちに「私達は熊本地震を経験したけれど、今ではこんなに元気になりました！支援してくれた方々に配してくれた方本当にありがとうございました。」というよんな思いが伝わればよいなと思っています。</p> <p>(児童の感想より)</p>

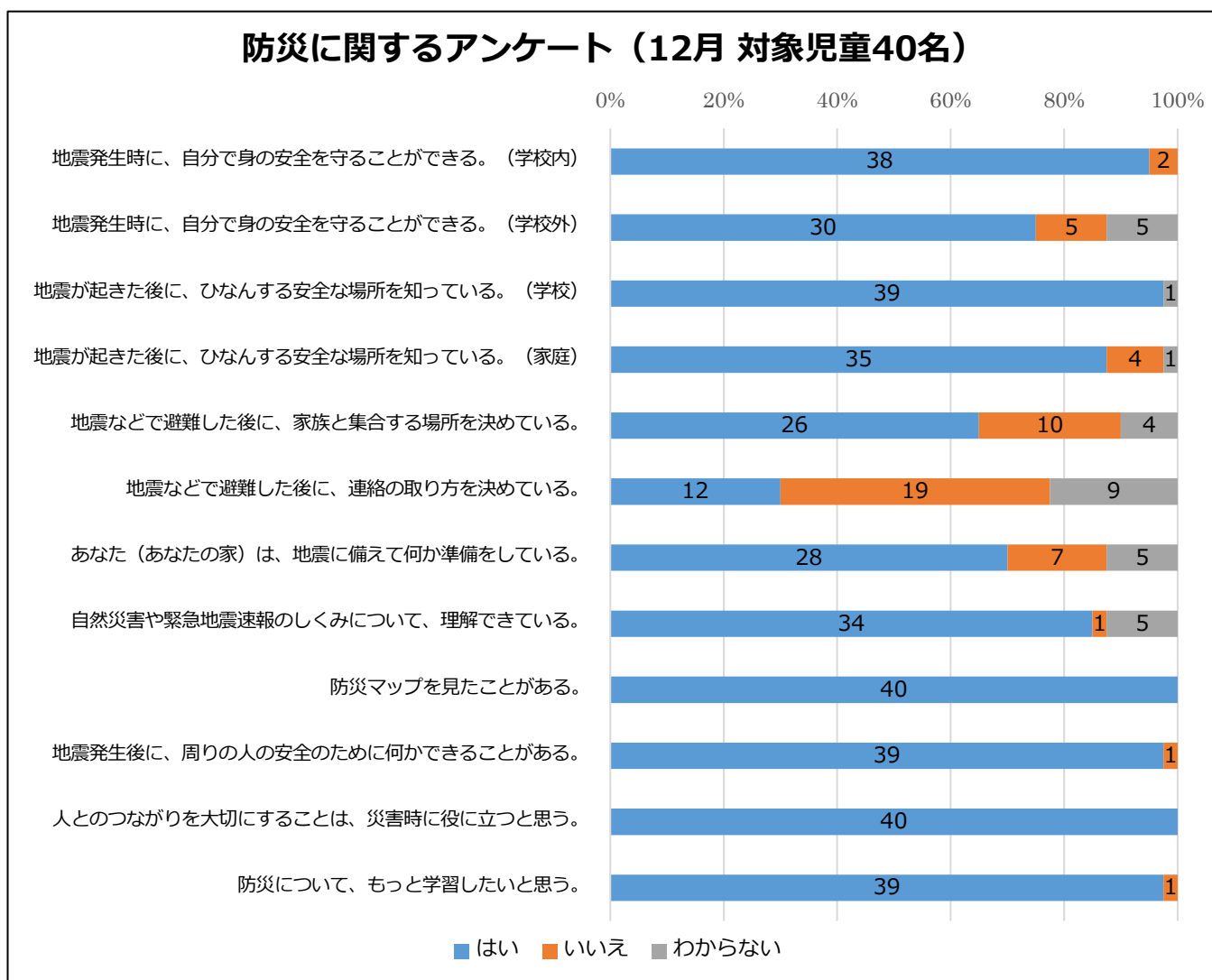
成果と課題

- 壁画に「熊本のよさを伝えよう。」と各地の名所や特産物などを盛り込むことによって、郷土のよさを再発見し、郷土を愛する心が培うことができた。このことは、郷土のために貢献しようとする意識や行動につながっていくと考える。
- 活動自体が児童にとって楽しいものであり、昼休みや放課後の時間を使うなど、意欲を持って活動に参加することができていた。完成した時の達成感は大きなものとなった。
- ▼ 通信等で活動の目的や児童の様子を伝え、児童の思いが地域に届くようにする。

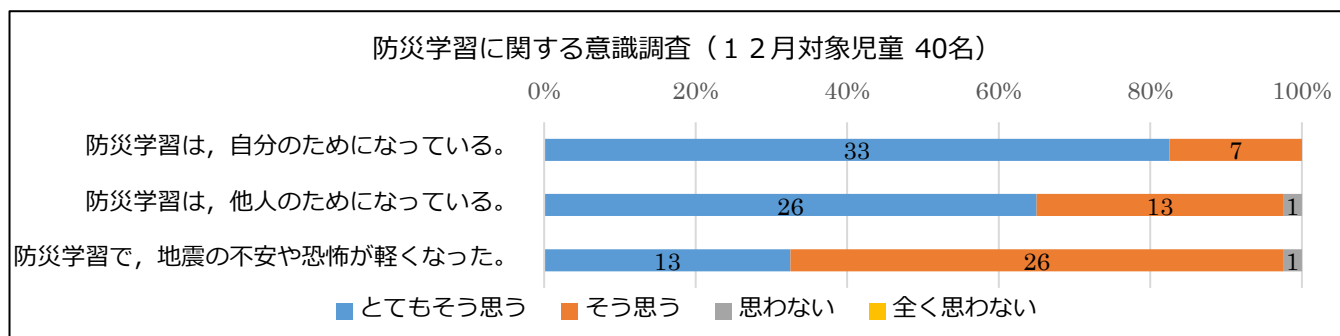
IV 研究のまとめ

1 研究の成果と課題

本研究の成果と課題を客観的に把握しようと、12月に防災に関するアンケート、防災学習に関する意識調査を実施した（資料5，資料6）。



【資料5 防災に関するアンケート 12月結果】



【資料6 防災学習に関する意識調査 12月結果】

(1) 視点1の成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の地理的環境や危険箇所，災害に対する備えなど知識や，自分の命を自分で守るための技能を習得し，日常生活やその後の災害時に活用したことによって，児童に「自助」の知識や技能を高めることができたと考える。 ○ 学校での学びをもとに，家庭で防災会議を開いたことで，家庭や地域の防災力を向上させるとともに，「自助」の知識や技能を高めることができたと考える。 ○ 地域や未来に発信する取組を通して，熊本地震の学びをつなぐとともに，児童の「自助」の知識や技能を高めることができたと考える。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 学校外で地震が発生した際の知識や技能等が十分に身に付いているとは言えない。児童に真の防災力を身に付けさせるために，学校と家庭，地域が一体となって防災教育に取り組む必要がある。 ▼ 下級生に学びを伝えるなどして，災害時だけでなく普段の学校生活においても知識や技能を活用する場面を設定する必要がある。

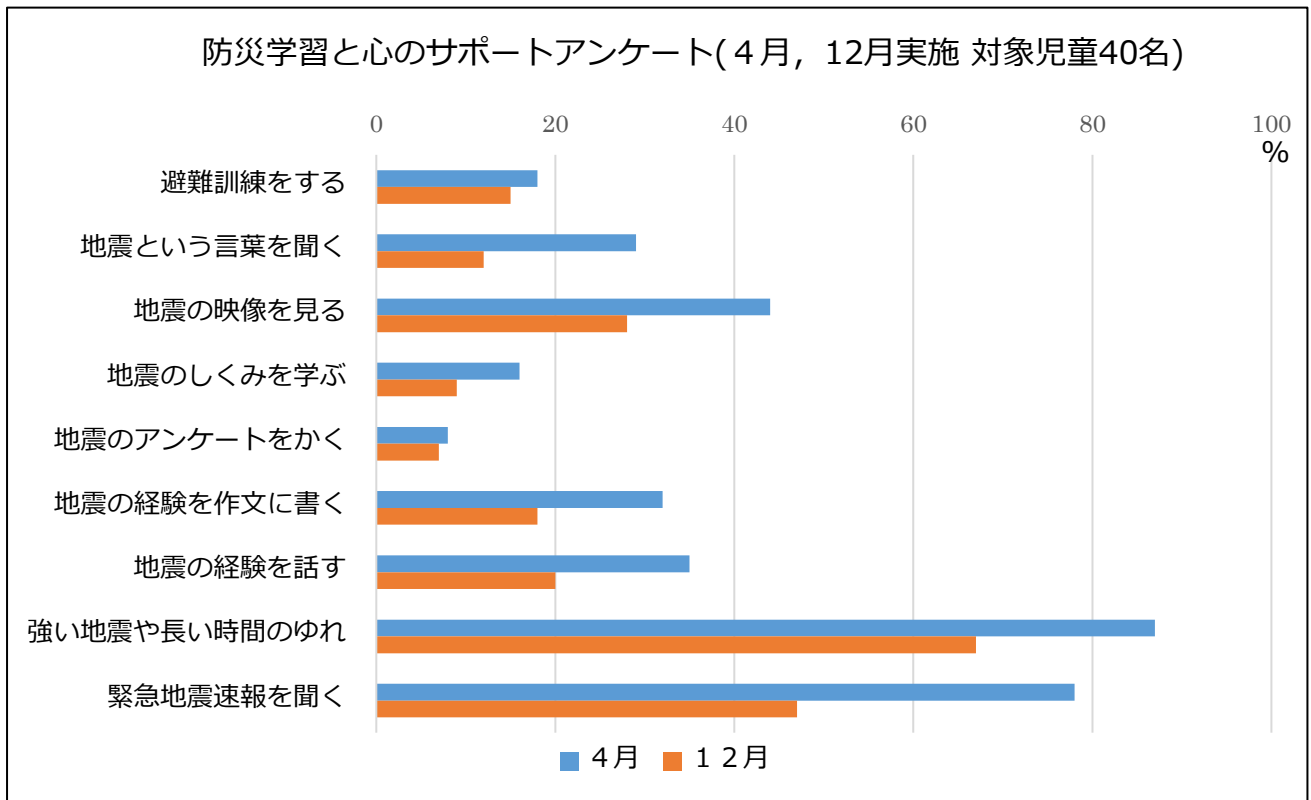
(2) 視点2の成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本地震の学びを核としながら，他者と関わることで培った思いや考えを表現することを通して，命の尊さや人とのつながりの大切さを再確認し，社会貢献への意識や行動力を育むことができたと考える。 ○ 継続した取組を行ったことで，地域や被災地支援のよさや大切さが分かるとともに，自分たちにできる社会貢献のしかたについて学ぶことができたと考える。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 児童が，地域や社会に貢献するよさや大切さを学ぶために，地域人材発掘や他者と関わる場の設定に取り組む必要がある。 ▼ 社会貢献の意識を浸透させるために，学校全体で被災地支援に取り組む必要がある。

(3) 研究全体の成果と課題，今後の対策

成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本地震の学びを生かした教科等横断的なカリキュラムを組んだことによって，道徳科を始めとするそれぞれの教科等のねらいや視点に沿って，体系的に「自助」や「共助」の資質・能力を育むことができたと考える。 ○ 各時間のねらいを「自助」と「共助」のどちらかに重きを置くことによって，育成したい資質・能力が明確になり，効果的・計画的に，児童に防災力を育むことができたと考える。 ○ 児童が，地域や被災地に発信する取組は，多くの笑顔を生み，復興への原動力につながったと考える。 ○ 熊本地震を生かした防災教育は，郷土のよさを再確認・再発見することができ，地域防災力の向上や社会貢献への意識や行動力へとつながったと考える。
課題と対策	<ul style="list-style-type: none"> ▼ 児童の防災力をさらに高めるためには，学校と家庭，地域が一体となって防災教育に取り組む必要がある。 → 地域一体型の総合避難訓練や保護者参加型の防災学習などを実践していきたい。 ▼ 今後も継続して熊本地震の学びを生かした防災教育に取り組むことができるように，記録と記憶を継承していく必要がある。 → 2月に完成予定の児童による防災文集や本年度の実践記録などを残すことで学びをつなげていきたい。 ▼ 今年度は地震を主に研究を進めたが，津波や豪雪，火山活動などによる自然災害についても知識や技能を高めていく必要がある。 → 社会科や理科との関連を図った学習を行ったり，中学校と連携したりしながら防災教育を充実させていきたい。

2 本研究と心的ストレスとの関連性について



【資料7 防災学習と心のサポートアンケート】

本研究を進めるに当たって、最も配慮を要したのが、児童の地震による心的ストレスである。防災学習や避難訓練の際には、心のケアの時間を十分に取ったり、朝の心のケアタイムの充実を図ったりしてきたが、定期的にアンケートを実施し、心の状態をデータ化するようにした(資料7)。

4月と12月の「つらい、こわい」などマイナスに捉えた児童の割合を比較すると、どの項目も減少していた。これは、熊本地震の学びを生かした防災教育に取り組んだことによる成果だと捉えることができる。

本研究において、地震の恐怖や学びを児童同士で共有したり、他者への貢献を通して自分たちの成長を実感したりしたことで、心的ストレスが軽減したのではないかと考える。また、災害のメカニズムや緊急地震速報のしくみなどを知識として習得し、災害への備えや避難の仕方などを実践の中で活用したことも、心的ストレスを軽減することにつながったと考えられる。しかし、未だに心的ストレスを抱え続けている児童も存在しており、今後も熊本地震の学びを生かした防災教育と心のケアの充実に努めていく必要がある。

おわりに

熊本地震後に、益城町に赴任してから3年間が経とうとしています。

初年度から、防災主任という重要な役職を任せて頂きました。最初は、本県には前例がなく、何をすればよいのかわからないまま、他県の先行研究や専門家の先生方に学びながら、本校職員の協力のもと、どうにか進めて参りました。

そのような中に、九州北部豪雨や大阪北部地震が発生しました。地震の学びを生かして、被災地のために活動する本校児童の姿を見て、防災教育の力を実感しました。

来春には、新たに134名の新入生が本校に入学します。その子たちが被災したのは、わずか2歳の時です。幼かったにせよ、地震の恐怖は未だに残っている可能性もあります。「令和」を生きる子どもたちのためにも、防災教育を充実し、恐怖心を拭い去り、自分の命を守り抜く力や安心で安全な社会を築く力を育む必要があります。

防災教育は、今求められている教育、今やらなければならない教育ということを、3年間、広安西小学校で、益城町で、そして上益城で勤務させていただく中で学ぶことができました。

最後になりましたが、本論文に対していただきました貴重なご意見やご指導を今後の研究にぜひ生かしていきたいと考えています。誠にありがとうございました。

参考文献・資料

おわりに

- ・ 小学校学習指導要領総則（文部科学省）
- ・ 学校防災のための参考資料 「生きる力」育む防災教育の展開（文部科学省）
- ・ 「生きる力」を育む学校での安全教育
- ・ 「熊本地震の対応に関する検証報告書」（熊本県教育委員会）
- ・ 地域へ、全国へ、そして未来へつなげる熊本県の防災教育 学校防災教育指導の手引き(熊本県教育委員会)
- ・ 防災教育と心のケア ハンドブック（熊本県教育委員会）
- ・ 平成28年度熊本地震関連教材 つなぐ～熊本の明日へ～（熊本県教育委員会）
- ・ 防災教育の不思議な力 子ども・学校・地域を変える 諏訪 清二著 岩波書籍
- ・ 安心安全情報ホームページ 防災インタビューvol135「防災のためのレジリエンスとリテラシー～予測力・予防力・対応力」林 春男防災科学技術研究所理事長
- ・ 読売新聞朝刊（H18.5.12）